

〔植物ニュース〕

長野県に新たに加わる帰化植物－アライドツメクサ

橋渡 勝也

Katsuya Hashido: *Sagina procumbens*, a newly naturalized plant in Nagano.

南安曇郡豊科町立豊科北中学校の正面玄関の前庭で、6月下旬に小形のツメクサを採集した。このツメクサは、アカマツの根元のマット状の苔の中に本来のツメクサと共に生えていた。特徴は、茎の長さ1～4cmと全体的に小さく、根から四方に密生した枝を出す。花びらがく片、おしべは4数だが、花びらはほとんど目だたない。

『日本の野生植物』（平凡社）には、北半球に分布し、北海道・本州の青森県に帰化した「アライドツメクサ」という種類が記載されているが、現在知られている産地は、長野県とは遠く離れた地域である。

神奈川県立博物館の高橋秀男先生にお世話

いただき、横浜産のアライドツメクサと照合したところ、アライドツメクサであることが確認できた。

豊科町へどこからどのような経路でやってきたかは定かではないが、新しい地で10周年を迎えた豊科北中学校へは、ここ数年内に侵入してきたと思われる。長野県内で、他の場所にはないのか。目立たない植物だけに、見落されている可能性もある。今後、各地を注目していくと同時に、発芽から枯れるまでの一生を詳しく観察したいと考えている。標本同定の労をとられた高橋秀男先生に御礼申し上げます。



写真、3月初旬のツメクサ（右の大きいもの）とアライドツメクサ、どちらも蕾をつけている。（H7.3.2撮影橋渡）

なり、文献の参照・引用もさせていただきました。学生時代に味噌川谷と一緒に歩いていただいた神奈川県立博物館の高橋秀男先生には、ミソガワソウの由来に関して手掛かりになる諸論文を紹介していただきました。国立科学博物館の門田裕一先生には、原記載に関わる諸論文を紹介していただき、解釈についてもご教示いただきました。信州大学理学部の井上健先生には、文献の紹介や写真の同定をしていただきました。木曽の植物に詳しい奥原弘人先生からは、ミソガワソウの生育地など種々のご教示をいただきました。木祖村誌編纂室の澤頭修自先生には、植物調査や資料収集の面で便宜をはかっていただきました。また、山村代官屋敷では、資料の閲覧を許可していただきました。厚く御礼申し上げます。

引用文献

- Franchet, A. et Savatier, L. 1875. *Enumeratio Plantarum in Japonia sponte crescentium*. P.375, Paris.
- 原 寛 1948. 日本種子植物集覧, 215頁, 岩波書店.
- 伊藤圭介 1877. 日本産物誌, 信濃之部上, 21丁表~22丁裏, 文部省.
- 牧野富太郎 1940. 牧野日本植物図鑑, 178頁, 北隆館.
- 牧野富太郎 1961. (前川・原・津山編) 牧野新日本植物図鑑, 525頁, 北隆館.
- Maximowicz, C.J. 1875. *Diagnoses des nouvelles plantes du Japon et de la Mandjourie*. Décade XIX, Bull. Acad. St.-Pétersbourg. XX, P.469-470.
- 村田 源 1976. 世界の植物, 14号, 316頁, 朝日新聞社.
- 中井猛之進 1949. 東亜植物拾遺33, 植物研究雑誌 23: 18頁.
- 小倉為助 1845. 木曽産草花根皮類, 山村代官屋敷所蔵.
- 奥原弘人 1971. 木曽谷の植物, 25,75頁, 木曽教育会.
- 奥原弘人 1985. 木曽の植物, 219頁, 信濃毎日新聞社.
- 高橋秀男 (監修) 1990. 野草大図鑑, 292頁, 北隆館.
- 邑田裕子 1994. 植物の世界, 20号, 2-248頁, 朝日新聞社.
- 武田久吉 1959. 原色日本高山植物図鑑 (増補改訂版) 12頁, 保育社.
- 豊国秀夫 1988. 日本の高山植物, 188-189頁, 山と溪谷社.
- 上野益三 1991. 博物学者列伝, 102-104頁, 八坂書房.